

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



S_erve (枝)
A_ct (幹)
L_ove (根)
T_hink (土)
Y_es (種)



わたしから始める、世界が変わる
地域変革の鍵、人財育成…SALTYとLIGHTSの生き方②

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

途上国に生きる人々の極度の貧困状況は、人々を時に自分たちでは抗うことのできない絶望的な事柄と思わせてしまいます。そのような中から「私から始める」と立ち上がることができたとしたら、まさに人々を取り巻く「世界が変わる」はずです。地域変革を担う人財育成セミナーは、そのために一人一人の内側からの変革を促していくものです。

今回はその人財育成の鍵となる「SALTY & LIGHTS」の「SALTYな生き方」をご紹介します。SALTYは文字通り「塩のような」を意味します。塩は食べ物に味を付け、他の栄養素の消化や吸収を助けたり、腐敗を防いだりします。この塩のような生き方を自然の木の姿から学んでいきます。

SALTYのSはServe (仕える=枝)、AはAct (行動する=幹)、LはLove (愛する=根)、TはThink (考える=土)、そしてYはYes (従う=種) を意味します。このSALTYは順番が大切です。後ろのYのYes (従う=種) から先頭のServe (仕える=枝) へとステップアップしていくのです。

Yes (従う=種) は、種がいのちを生み出すためにその形を残さないように、まず自分が変わりその自分を受け入

れることから始まります。Think (考える=土)、土は定期的に耕さなければなりません。自分のうちで改善を必要としているのはどこだろうかとまず考えることが大切です。良い実は良い土から生み出されていくからです。Love (愛する=根)、根は土の中で木の成長に必要な栄養素を幹に向かって送り出し、木を安定させています。根のない木は存在しないように、まず私から他者を愛することから良い結果が生まれるのです。Act (行動する=幹) は、まず自分から行動に移します。木を見たときまず目につくのが幹です。幹の中では上下方向に栄養が行き来しています。私から行動する場所、事柄はどこでしょう。「暗いと不平を言うよりも、あなたが進んで明かりをつけなさい」マザーテレサのこの言葉は有名です。Serve (仕える=枝)、枝には葉や実がついています。これがなければ種は栄養を得ることができません。まず仕えることで他者を勇気づけ後押しすることができるのです。

この段階を自分の置かれている環境に当てはめて学ぶことによって、先回ご紹介したニジェールの洪水被災者やコンゴ民主共和国の国内避難民の方々に希望と生きる力が与えられました。次回は『LIGHTS』をご紹介します。



ケニア・シーブケア学校 給食支援プログラム



自立運営実現にチャレンジ

ケニアの首都ナイロビからおよそ15kmの所にあるスラム地域、ソウエトにあるシーブケア学校は、スラムの子どもたちが教育を受け、全人的に成長することができるよう願って作られた学校です。一日一日を生き延びるのに精一杯で、将来の夢を描くことが困難な子どもたちが学校に通い続けるためには、給食は非常に重要です。保護者や近隣の人々の協力を

得てささやかながら提供している学校給食が、子どもたちの命をつなぎ、学習への意欲を高めています。その結果2名のストリートチルドレンから始まったこの学校には、現在750名の生徒が集い、学ぶようになりました。

す。地方から出てきている人々が多いナイロビでは、冠婚葬祭や長期休暇の度に大勢で故郷に帰ると

バスを運用して収入創出

2010年の大干ばつによる食料価格高騰のために給食の継続が危うくなりましたが、JIFHを通して日本の皆さんからの支援を受けて続けることができました。一方、この学校ではただ支援を受け続けるのではなく、自分たちの手で子どもたちの教育環境を整えたいと願い、地元銀行の協力を得て自立のための収入創出プロジェクトをスタートさせました。



購入した51人乗りバス

いう習慣があり大型バスの需要が高いからです。

バスはケニアの西部とナイロビの間を運行、多くの人々がバスで移動する週末にはいつもいっぱいになります。早期にローンを返済すると共にバス事業を安定させて給食の運営を少しずつ自分たちで担い、ローン完済予定の2020年以降は、完全な自立運営を目指しています。

51人乗りのバスを購入したので



給食準備の様子

プロゴルファー 中嶋常幸さんが 給食支援に協力

東大阪中央ロータリークラブ

シーブケア学校をこれまでも応援してくださっている東大阪中央ロータリークラブ（小川高広会長）が、プロゴルファーの中嶋常幸さんをゲストに招き、3月10・11日にホテル（大阪）でのチャリティートークショーとゴルフコンペ（奈良）を開催、中嶋プロのサイン入りグッズのオークション収益やチャリティ参加費などを学校給食のために募金してくださいました。両日とも多数の方々が出来会と盛況となる中、中嶋プロからもシーブケア学校への応援を力強く呼びかけてくださり、あたたかい募金が寄せられました。



講演する中嶋氏（ホテルディナー）



参加者と談笑（ゴルフコンペ）



小川会長から岩橋理事長に募金目録

シーブケ学校給食支援のために、ぜひハンガーゼロサポーターとなってください！最終面にご案内

貧困の現実を見て考えさせられたこと

西南学院大キャンプは、国際飢餓対策機構フィリピン（FH）の活動地に滞在し、貧困の現状を知り、奉仕の精神を養うという目的があります。今回は学生16名と大学引率者2名、JIFHスタッフ1名が参加しました。マニラ郊外・マラボン市Tongsuya地区では2月8日に大規模火災が発生、約700世帯が被災し、FHが支援する子どもたちの家も焼けました。その避難所での子どもケアのプロジェクト参加を皮切りに、役所への訪問、子どもたちへの保健衛生・防災教育、小学校保健室の改修工事の手伝い、家庭訪問を通して、FHと行政、学校、地域ボランティアが連携して行う、子どもをとりまく地域変革の取り組みを見ることができました。

ボランティアは初めてだけど何かしたい、世界の貧困について知りたい、問題の解決策は？ 様々な思いで参加した学生たちの感想を一部ご紹介します。



これがボランティアなんだ

新田直人

（人間科学部児童教育学科2年）

自分が何かをしてあげる立場と
思い、臨んだ今回の活動。人との
関わりの中でたくさんの愛情をもら
い、励まされました。感謝の気
持ちでいっぱいの私たちに感謝し
てくれました。これがボランティア
なんだと気づきました。決して裕
福とは言えない環境の中でも笑顔
で家族や周りの人たちを大切に生



持ちになると感じました。それが
共生につながるのでしょうか。これ
から、フィリピンについて知り、思
いを馳せること、食べ残しをしない
こと。小さく間接的ですが、私
の行動が周囲の人にフィリピンや
貧困問題について関心を持ってもら
うきっかけになるように、継続し
ていきます。又人と関わる上で相
手の背景や肩書ではなく、その人
自身と向き合っていきたいです。

間を増やすためにこの活動がある
のかなと感じました。一方、観光地
で出会った5歳くらいの物乞いの
男の子が、それまでに会った学
校や地域の子もたちとは全くと



違っていいほど違うのに戸惑い、
私たちが見た世界はほんの一部で
あることを考えさせられました。

☒ ☒ ☒

出会いの中で、学生たちの心の
うちに変化がありました。それが
今後の日々の選択、方向性を変え
るものとなるでしょう。また、地域
変革に取り組むフィリピンの人々
も日本の学生との交流に励まされ、
新たな思いや志をもって活動に
取り組み続けることでしょう。互
いに励まし、より良い世界のため
に協力し合うことができる、一歩
踏み出すことの大切さを強く思
わされた11日間でした。

（報告：星野絢子）



活している人々を見て、自分が日
本で家族や友人を大切にできている
か考えさせられ、周囲の人たち
を大切にしたいと思いました。

人と向き合うことを大切に

栗山花菜子

（人間科学部社会福祉学科3年）

国や言語は違えども、人と人が
同じ目線で関わることで温かい気

全く違う子どもに戸惑い

柏木菜海

（人間科学部社会福祉学科1年）

ゴミ処理などの問題が山積み
で、息ができないほど異臭がする
地域もありましたが、そこにも笑
顔がありました。「幸せ」は人が
決めるものではなく、いつでもど
こでも幸せを感じる瞬間は自由
で、人それぞれであること。その瞬

※jifhホームページには参加された全学生の感想を掲載する予定です



コンゴ民主共和国



国内避難民が地域を変革する

2013年、紛争に巻き込まれた130人あまりの人たちが、徒歩で500km離れた第2の都ルブンバシに避難してきました。その避難民のリーダー・パメラさんが、JIFHの主催で開かれた地域変革 (VOC) セミナーに参加しました。それまで多くの困難の中で無力さを経験してきた人々は、他からの支援に頼ることに慣れてしまっていました。しかしこのセミナーで、考え方を变えること、自分たちの可能性を信じてそこにある資源を利用して何かを始める、ということに思い至ったのです。早速学んだことを実行しようと、元住んでいた村の近くのプエト

地域に戻り、一緒に避難していた人たちと共に農業を始めました。

この人たちの心と身体の支援をしてきたハンズ・オブ・ラブ・コンゴの現在の活動と避難民の人たちの様子を、JIFHの海外駐在員ジェローム・カセバが報告いたします。

3つの村にプロジェクトが拡大

今プエトの農場では人々がほんとうに楽しそうに働いています。栽培したものを家庭で消費し、残りを売ることによって生活が変化しました。かつて食料を一番にもらいにくっていた人々が、今は「いりません」と言うのです。「頂き続けて



ジェローム駐在員

いるとその団体が引き上げたらまた飢えてしまいます、だから自分たちで頑張ります」と。コンゴでは支援をことわるのはきわめて稀です。

パメラさんの農業プロジェクトは1つの村から3つの村 (ルヴァ、チャンプ、ルキンダ) に広がり、村のモデルとして他の地域から人々



男も女も共に働くことにより収入も増えました



子どもたちの教育支援もこれからの課題



養豚プロジェクト



教育環境の改善が必要なルキンダ村の学校



が学びに来ています。

農業もさることながら、さらに変化したことがあります。コンゴでは、女性が農作業をし、作物を収穫して運び、家に帰ってからは水を遠くに汲みに行き、食事を整えて子どもの面倒もみます。80%の仕事は女性がしているのですが、女性は劣った存在としてみられています。特に地方ではその傾向が強いのです。この3つの村で女性は男性と同様に大切であること、平等であることを伝えました。その結果女性だけが働いていた

農場で男性も働きはじめ収入も増えています。

このような変化は人々自身から出てきたもので、人々の希望へとつながり、喜んで働くことができているのでしょう。

27年前の教科書で勉強…

このほかに、ハンズ・オブ・ラブ・コンゴは日本の皆さんの支援を受けて、養豚プロジェクト、教育プロジェクトを行っています。教育プロジェクトでは、この3つの村で計50人の子どもたちの授業料

と制服、学用品の支援を行っています。教室は燃えやすい屋根で危険な上、座り心地の悪い泥を固めた椅子で勉強しています。村人の努力を見た政府が、昨年24人の子どもが通っているルヴァ村に校舎を建設してくれました。しかし他の村は元のままです。また教師は1990年の教本を使って教えているので、新しい教材と教師のトレーニングが必要です。

ハンズ・オブ・ラブ・コンゴでは、農業、養豚、教育の3つのプロジェクトを3年間で終え、その後は子どもの親が自分たちの力で学校に行かせることができるようになることを願っています。

コンゴ民主共和国の人々の取り組みのためにぜひハンガーゼロサポーターになって応援してください！最終面にご案内

アフリカ大陸中央に位置するコンゴ民主共和国の紛争は、周辺国を巻き込みながら、15年以上に渡って続いています。犠牲者は、第二次大戦後に起きた紛争としては世界最多である540万人以上。シリアやウクライナ、パレスチナなどの紛争が各種メディアで報道される中、コンゴ民主共和国の紛争が取り上げられることは極まれで、特に日本ではこの紛争の存在すら十分に知られていないのが現状です。

コンゴ民主共和国

(以下コンゴ)の東部には広大な熱帯雨林が広がっており、金や銅、木材、スズ、コバルト、ダイヤモンド、タンタルなど、豊富な天然資源に恵まれた国です。しかしこれらの豊かな資源は、ヨーロッパ人が到来して以来、争いを引き起こす大きな要因になってきました。

コンゴ紛争によって犠牲となった540万人の9

割以上は、直接的な戦闘によるものではなく、病気、また飢えが原因です。戦闘が勃発すると一般市民は着の身着のまま生まれ故郷から逃れ、森や山へと避難しますが、そこでは十分に食事を摂ることが出来ない事から、多くの人々がマラリアや下痢などの病気で命を落としています。またコンゴ紛争では、子どもたちが兵士として徴兵され、戦

いに加担させられています。地域によっては70%の女性が性的暴力を受けているともい

コンゴ民主共和国の現状

豊富な天然資源が紛争の要因に

われています。

紛争の原因となっているコンゴの豊富な天然資源、特にパソコンやスマートフォンなどに使われているレアメタルは、私たちの生活になくてはならないものになっていることを思うと、その陰にある想像できないほどの犠牲を忘れてはなりません。ぜひコンゴでのこの地域変革を応援ください。



2016年4月に起こった熊本地震から1年、被災地以外の人々の関心は薄れてきているようですが、被災された方々の様子はどのようなでしょう。福岡市に本部を置く「九州キリスト災害支援センター」(略称=九キ災)の熊本ベースディレクター、中村陽志牧師に現在の被災地の様子をうかがいました。



支援はこちらから
九キ災支援センター
Tel.096-237-6341

九キ災 検索

ようやく現実を受け入れた人々に寄り添いながら

Q 3月現在の被災地の現状は？

地震から10ヵ月を経過して、避難所から仮設住宅に移り、受け入れ難かった現実をやっと受け入れることができ、被災された方々が今自分の家の片付けについて考えるようになってきたところです。それにもなってボランティア作業の依頼がたくさん来ていますが、ボランティアの方がとても少なく人手が足りない状況です。被災家屋の解体はまだ全体の60%しか進んでいないのです。

益城町の4仮設住宅を担当

Q 九キ災ではどんな活動をしておられますか

地震発生以来、述べ6,100人を超えるボランティアさんに支えられた活動が認められて、益城町役場から仮設住宅での自治会運営の常駐サポートを委託されました。現在、18のうち益城町の4つの仮設(弘前、津森、安永、馬水)を担当させていただいています。

倒壊した家の片付けや引越しの手伝いなど、求められているボランティアさんを募集するために、空いた時間に少しでも来ていただける「ちょこっとボランティア」(ちょこボラ)プロジェクトを始めました。それを熊本の新聞やホームページに流したら、まだボランティアが必要なことがわかって、長時間来てくださる方もできています。

家族と家族を繋ぐファミリンク

Q まもなく震災から1年になりますが、今後は？

これまでも、800戸を訪問してクリスマスケーキとカードをお届けしたり、仮設内でのコミュニティー形成支援として、親睦温泉

ツアーを行ったりしてきましたが、4月5日にはレーナ・マリアさんや、森 祐理さん(JIFH親善大使)などに来ていただき20ヵ所で支援コンサートを予定しています。また新しいチャレンジとして、被災家族と支援家族をつなぐ「ファミリンク」キャンペーンを計画しています。被災された1家族



に、1家族または1グループが毎月1回1年間プレゼントを贈るという企画です。支援家族にボックスを12個お渡しするので、そこにお金以外の物を入れて「九キ災」に送っていただき、こちらで被災家族に直接お届けします。このことで被災家族には、自分たちが覚えられていることを実感していただければ、また支援する側は被災者を忘れないことができます。

マスコミでは取り上げられなくなってきていますが、まだまだボランティアさんや支援センターへの経済的な支援が必要ですので、祈って支えていただきたいと思います。

現地でのボランティア(短時間でも可)や募金、ファミリンクで応援しましょう！



引っ越し手伝いの様子



仮設住宅の集会所でのクリスマス会



世界食料デー 芦屋大会 国際児童画展



世界食料デー（10月16日）月間に開催される芦屋大会（兵庫県）での「国際児童画展」は、今年26回目を迎えます。JIFHが支援活動を行っている5カ国の子どもたちの力作がパートナー団体を通じて届けられ、食料デー大会で展示されたり、貸し出し教材として利用されたりしています。この児童画展に毎年参加している、国際飢餓対策機構（FH）カンボジアから児童画展への「感謝の声」が届きましたのでご紹介します。



絵を描くことは才能の発見や心の内面を知る上で効果的

児童画展は子どもたちに絵を描く機会とともに、絵の才能の発見と成長の機会を与えています。入選の知らせや絵の講評をいただくことで、子どもたちはとても励まされ自信を持つようになっていきます。子どもたちは講評から新しいひらめきを得ることもあり、将来への夢も広がります。FHでは地元の若いアーティストを招いて、アートやその重要さを教えてもらうとともにアートの基本を学ぶ機会を持ちました。子どもたちの意見や考えを周囲の大人が知りたがっていることは

子どもたち自身も知っているのですが、それを表現することはむずかしく、絵によって子どもたちの内面を知ることができるのも大きなメリットです。

2016年のテーマは「食」、表彰式で賞状と賞品を手にする子どもたちの表情は、内側からあふれる喜びでいっぱいです。JIFHが子どもたちの成長のために企画している児童画展への招待を感謝します。

（文・FHカンボジア事務局長・リンリー グラ）



カンボジア トイチエイ村の子どもたち



「芦屋国際大賞 銀」を受賞したカンボジア チャンヒヤ村のリアー ローウン君（右端）下写真の上段㊸に作品



カンボジア バンミア地区の子どもたち



最優秀賞「芦屋国際大賞 金」に輝いた
バングラデシュのシュウォ デヴ君の作品



児童画展を開きませんか
詳しくは公式HP
<http://www.jifh.org>



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

もしもの時に「備えて安心」 おいしいパン缶の非常食!

非常用備蓄食の賞味期限は大丈夫ですか?
必要数を備蓄されていますか?
賞味期限が製造から3年の非常用備蓄食「おいしいパンの缶詰」は、水、電気、ガスがストップしても大丈夫! フタを開けるだけですぐに食べられます。



★ブルーベリー味が新登場!

(オレンジ味、ストロベリー味、ブルーベリー味)
1缶100g430円、3種類入り1セット1,290円
梱包送料800円。

合計2,090円を送料税込2,000円でお届け。
(但し北海道、沖縄エリアは別途800円加算)
3セット以上のお申込みで送料が大変お得になりますので下記へお問い合わせ下さい

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索。

◆ 第5回 メサイア全曲コンサート

千葉県佐倉市 5月20日 JIFH 支援

「佐倉メサイアをうたう会」主催によるヘンデル・メサイアコンサート(指揮:春日保人)が、5月20日(土)午後1時から千葉県佐倉市民音楽ホールで開催されます。

同会は佐倉教会有志を中心に2年毎に開催されています。今回も、コンサート収益から寄付(ルワンダ農家の自立を応援)をしてください。チケットは2,500円(全席)、申し込みは電話080-3503-1066又はメールで sakura.messiah@gmail.com へ送信、返信メールから購入手続きができます。

サマーキャンプinボリビア 「宝探しの旅へようこそ!」

お問い合わせいただいております8月のボリビアサマーキャンプについてご案内します。ぜひ参加をご検討ください。先着順となります。

現地では、小西小百合駐在員が随員、子どもたちとの交流や、異文化体験、FHボリビアの活動地域視察などの国際交流を楽しめるプログラムを行います。

【旅程&代金】8月14日(月)~26日(土)〈13日間〉

①早割価格(6月9日までの申込)34万5千円 ②通常価格35万円

※①②いずれも別途に空港税、燃料代などが必要となります。

問合せ・申込み:東京事務所 電話03(3518)0781

eメール:jifhtokyo@gmail.com



ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4262口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みができます。各事務所までおかけ下さい。

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- チャイルド・サポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____
フリガナ 住所: _____

.....
(電話)

▼申込日: _____年 月 日▼NL 321号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 00Cビル517号室
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

★T-POINTを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに370235ポイント(円)のご協力(3447件)がありました。募金はT-POINT募金で検索